

## 大阪ハイエンドオーディオショウ 2024 報告(2024.11.8)

大阪ハイエンドオーディオショウ 2023 は 11 月 7 日から 9 日まで心齋橋ハートンホテルで開催されました。以下は大阪ハイエンドオーディオショウ 2024 の報告です。



### 1. デモの概要

主催：大阪ハイエンドオーディオショウ実行委員会

協賛：各オーディオ・音楽専門誌

協力：関西エリアオーディオ店

開催日：2024年11月7日(金) AM10:30~PM19:00

11月8日(土) AM10:30~PM19:00

11月9日(日) AM10:30~PM17:00

会場：大阪・ハートンホテル心齋橋本館/別館

出展社 (22 社) :

#### ■出展社一覧

トライオード アキュフェーズ アーク・ジョイア

アクシス イースタンサウンドファクトリー アイレックス

エレクトリ フューレンコーディネート ハーマンインターナショナル

KEF Japan リンジャパン ラックスマン

メース メルコシンクレツ ナスペック

ノア オルトフォンジャパン PDN

サエクマース SOULNOTE ステラ ゼファン

各社のデモの概要は下記サイトに記載があります。

<http://ohas.info/>

## 2. デモの試聴経過

以上の出展社の中から、自宅で使用中のものの参考にするために興味を引いたデモの、試聴を兼ねて、出展各社の代表に質問をしてみることでした。なお、クラシックの再生は非常に少なく、それ以外の曲についてはコメントを控え、写真のみ掲載しています。

以下に概要を紹介します。

トライオードは Western の 300B アンプの EVOLUTION 300 のデモを行っていました。この Western の 300B は、EVOLUTION 300 に似た構成の、しなの音蔵のアンプで快調に動作しています。



SOULNOTE は、Lux のプレイヤーを使用したデモを行っていました。フォノイコ

ライザーのイコライザーカーブと位相反転機能のことについて質問しましたが、詳しいことは、E-2に関する HP 掲載の取り扱い説明書を参照してほしいとのことでした。

[https://www.soulnote.co.jp/image/SOULNOTE/e2\\_usermanual.pdf](https://www.soulnote.co.jp/image/SOULNOTE/e2_usermanual.pdf)

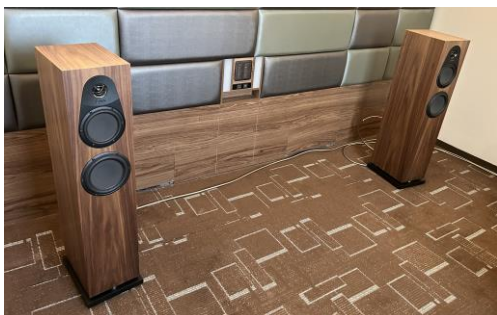
これによると古いレコードのレーベル毎のイコライザー表が掲載されており、1970年代までは、RIAA カーブ以外で録音されたレーベルがあり、RIAA カーブで録音されたレーベル以外では、逆相で録音されたものが多いとの記載もあります。



PDN は、ThorensTD1500 のデモを行っていました。シマムセンでの PDN 扱い新製品の試聴会の感想を述べ、興味をもった Thorens 付属のアームの単売があるかどうか、アジマス調整の方法はどのようにするのかという質問をしてみました。アームの単売は要検討事項であり、アジマス調整は固定ねじを緩めて容易に調整できるということでした。



LINN は二つのブースを構えていましたが、ちょうどアナログの再生はしておらず、バッハのチェロ組曲がかかっていたのですが、湿度感に欠ける音でした。LP-12 のカールセルの導入やフォノケーブルのバランス化の印象を伝えました。



オルトフォンでは、トランス内蔵カートリッジの新製品の情報を求めて訪れ、下記の記載があるパンフレットを入手しました。ちょうどSPU GT-Sでの再生がありましたが、クラシックではありませんでした。これらについては興味があります。

SPU GTE 105    SPU GT-S    SPU GT-E



ノアは、ハイエンドの見本みたいな組み合わせのデモでした。ノア扱いの Magic Mat II の購入予定であることを告げたところ、ちょうど Dr. Feickert ブランドのプレイヤー Firebird にセットして再生しているとのことでしたが、クラシックではありませんでしたので効果の確証は得られませんでした。Magic Mat II の効果については、期待して欲しいとのことでした。なお、Dr. Feickert の測定ソフトの Adjust+ は取り扱っていないとのことでした。





アキュフェーズは、ちょうどオペラのような曲が大音量でかかっていたのですが、スピーカーとの相性のせいか、粗い音でした。フォノイコライザーのデフォルトが3番ホットになっている理由を聴いてみましたが、日本の昔の機器が3番ホットなので、それとの相性で昔からそのようにしているということでした。また、個々のレーベルの位相については知識がないようでした。



### 3. まとめ

音質については、アナログもふくめて本格的なクラシックの試聴機会がすくなく、これとは思うものが見つかりませんでした。

機器として興味を引いたのは、Thorensのプレイヤー付属のアームとオルトフォンのトランス内蔵カートリッジです。Magic Mat IIの効果は、デモでは確認できませんでしたが、近々に入手の予定です。

アナログ盤の位相については、ソウルノートはソフト要因をあげ、アキュフェーズはハード要因をあげていましたが、いずれも伝聞情報のようで、しっかりした文献調査や実証的検証はしていないようです。

即売コーナーでは、TACETレーベルの半額販売につられ、2枚ほど購入してきましたので、

ディスコグラフィーのページで紹介いたします。

以上